平成十年十二月十六日第三種郵便物認可 第一〇九号 令和四年六月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日)発行

生きる力 SHINGON



岩手県陸前高田 市

岩手三十三観音霊場第十六番札所

雪の三陸地方

<u>،</u> どと思いながらも美しい景観を楽しみ、同時に東日本大震災の被害 のかわいらしい列車の車窓には、きれいな青空と、灰色の雲が映 に思いをめぐらし、落ち着きのない心で目的地へと向かいました。 対照的な暖かい車内の列車に揺られ「雪かきがさぞ大変だろう」な スです。 前泊地の気仙沼駅に向かうJR大船渡線、ワンマン運転二両編成 「列車が通過します。雪が舞い上がるので離れてお待ちくださ 白く柔らかそうに積もった雪景色が流れました。その景色とは 新幹線から在来線へ乗り換えた一ノ関駅で耳にしたアナウン 関東の中でも温暖な地域で育った私には新鮮なものでした。

静謐な境内と気仙大工による堂字

どっしりとした風格と趣のある本堂が現れます。 上ると、 場で下車、 る六地蔵さまにお迎えいただきました。山門をくぐりさらに階段を 気仙沼駅から車で二十分ほど移動し、参道階段の中腹にある駐車 手入れが行き届き、落ち着きある凛とした空気の境内に、 階段を上ると山門前の参道をはさんだ左右にいらっしゃ

開創されたと伝わっています。現在の本堂は昭和三十七年、 長圓寺は永禄年間 (一五五八─一五七○)、権大僧都長圓法印により 第



本堂屋根には、しゃちほこがみられます。



さがうかがえました。 ような雰囲気があります。 象を与え、見る者の心を落ち着かせてくれる は緻密な装飾もあり、 たこの本堂は、美しく調和が取れ、精密な印 有名な大工集団 大船渡市・陸前高田市・住田町の気仙地区で 二十五世宮城隆規和尚代に再建されました。 「気仙大工」により建築され 気仙大工の技術力の高 向拝や堂内欄干に

具や家具、細工までこなす多彩で万能な技術 り、より高めた技術を地元に持ち帰り、錦を飾 で名を馳せました。日本各地に出稼ぎに回 年七月に完成、こちらも気仙大工による建築 る気持ちで匠の技を披露したのだといいます。 集団で、民家はもちろん寺社造営や造船 本堂向かって左手にある鐘楼堂は昭和五十 気仙大工は、江戸時代初期に発祥した大工 建

あり、 散見されました。 檀信徒の、 また、 伽藍を完成させるために力を尽くした 境内地のあちこちには記念碑などが 団結力の強さが感じられる記録が

日本最大の隕石落下

囲に雷鳴のような轟音と地鳴りが響き渡りま 大の隕石でした。 嘉永三年 その正体は長圓寺境内に落下した日本最 (一八五〇) 五月四日の早朝、 周

ます。

1

結果、一○六キログラムまで重量は減り、 にご利益があると信じ、 の産業である養蚕や漁業、 きたこの大きな隕石を見た村人たちは、 どあったといいます。 にと隕石を削り取り持ち帰ってしまいます。 落下当時、この隕石は一三五キログラムほ しかし、 自身のお守りのため あるいは疫病退散 天から降って 地域 隕

館で保管されています。 野にある国立科学博物 石本体は現在東京都上

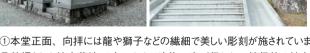
隕石という概念が当

異に人々は恐れも覚え ります。 まう気持ちもよくわか 寺の境内に着地すると 加えて、その奇跡がお があったのでしょう。 じさせるに十分な魅力 奇跡的な力があると信 きた巨大な物体には、 突如天空から落下して かではありませんが、 時あったかどうかは定 るご利益を期待してし ンを感じさせ、 いうのも、とてもロマ 前代未聞の天変地 しかしやは 多大な

> という伝統芸能があります。 除災招福を願うこの伝統行事は、 子舞と同様、二人一組で一方が獅子の頭をか た人々が、災厄を払うために始めたのが起源 が何かの凶兆なのではないかと不安に襲われ ぶり近隣の家々を練り歩くものです。 陸前高田市気仙町二日市地区には よく知られる獅 隕石の落下 5 「虎舞」 正月に







- 檀信徒の協力で浄業が達成されました。
- 傍に植えられた桜は東北の春を彩ります。
- ⑤長圓寺で保管されている隕石のかけら。原則、非公開です。











- ⑥ご本尊大日如来を中心とした本堂内陣。 毎年3月11 日には慰霊法要が行われます。
- ⑦東日本大震災慰霊碑。青いガラス装飾の向こうには三 陸の海が広がります。
- ⑧立ち並ぶ角塔婆。こちらの地域では、還暦の同窓会を 開く際、亡くなった同級生の供養を行う習慣があり、その 度に建立されています。
- ⑨長圓寺第 27 世 宮城隆照住職

細やかな気遣いや心配り、整った境内からもその人柄が 伝わってきます。遍照講指導師範として御詠歌の普及に も尽力されています。

が

建てられ、

傍らには桜の

木が植えられていました。

海を臨

平成二十三年三月十一

続けています。 集まりました。 避難所として多くの人々 ここ長圓寺は高台にあるた に遭われた皆さまの には追善法要を行い め大きな被害からは免れ、 に発生した東日本大震災。 毎年その 供養を Ė

ます。 が うしても海を連想させてし 城隆照住職は まうので、 陸前高田の広田湾が広 く透き通る装飾に 建立され、 本堂裏手には震災慰霊 慰霊碑に施され 辛い記憶を呼び その眼下には 「この色はど うい て 宮^{みゃ} た青 が n 碑

> り、 れ 戻してしまうのではない 人もいます。 みました。 もう二度と海は見たくないという人も 区切りを付け気持ちを切り替えてい 海に対する思いは人それぞれ かと使用を迷 る あ 悩

はお囃子の太鼓や笛、

そし

て舞などを習い、

実際に行

で活躍しているそうです 隕石の落下地点には石碑

霊碑に手を合わせ、 もたらしてくれる一方、 えて採用しました」と語ってくれました。 いる私は複雑な思いで海を見つめ、 た脅威となる。普段から海の至近で生活して 合う美しさが、 取材当日、 静かで穏やかでした。 長圓寺から眺めた海は波も 海とともに栄えてきたこの地 少しでも癒やしになればと考 追悼の祈りを捧げました。 時として人知を超え 海は多大な恵みを そして慰 な

、智山教化センター所員/池田裕憲

撮影/清水健

奏地区公民館 上長部● グラウン |陸沿岸道路 陸前高田 長部駅● 長部IC ACCESS アクセス

寶尾山長圓寺

〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町丑沢133 車:三陸沿岸道路 陸前高田長部ICより約3分 バス:JR大船渡線 長部駅より徒歩約20分

だとい

いま

す。

現在は保存

会もでき、

地域の子供たち

今日の法語

<mark>早川 宥貴</mark> (_{東海}教区 寶壽院)

(学院) 「自らを灯とし拠り所にしなさい」

更引な道具や青展で満らて生活が豊かこなっ子たちに説いた言葉です。 死が目前に迫ったお釈迦さまが、不安がる弟子たちに説いた言葉です。

歪み何も見えなくなっていく気がします。認したい。そうすればするほど、周りが眩しくているのに、いい知れない不安が尽きぬ昨今。

いつでも光を添えていてくださるから、大丈夫。示してくれるのは自心の中の灯。仏さまの灯が自らの人生を歩むとき、足元を照らし行先を





初めてお寺の行事に参加して

~金剛合掌·洒水加持·お授け·南無大師遍照金剛~

だった。

くお寺に来ていたのだが、父に代わってお寺

檀家なのでお墓参りやご法事など、何度とな境内には先祖代々のお墓がある。このお寺の

生まれ、子供の頃からこのお寺を遊び場とし

て育った。近所には親類縁者も多く、

お寺の

に一度の大きな行事である。

私はこの地域で

行事が行われた。地域の皆が集まるような年

Aさん――ある夏の日、近隣のお寺でお盆の

きたいと思います。

の行事に参加するのは、今日が初めてのこと

大きないでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きがら参道を進む。早速本堂に入るとすでにながら参道を進む。早速本堂に入るとすでに数人集まっていた。私はご本尊さまに手を合わせ一礼し、何人かの知り合いに挨拶をした。 下ろした。一息ついて汗を拭いながら広い堂下ろした。一息ついて汗を拭いながら広いでは多くの本々があり、木陰を選びて、同じ地区の人たちが座る壁際の席に腰を下ろした。一息ついて汗を拭いながら広い堂内を見回してみる。

ついて、どのような意味があるのかを見ているまり馴染みのない難しいことが多い」と、ほわれがちではないでしょうか。そこで今回思われがちではないでしょうか。そこで今回思われがちではないでしょうか。そこで今回思かれがちではないでしょうか。そこで今回思かれがちではない難しいことが多い」と、「お授け」やご宝子の「南無大師遍照金剛」におきます。

内は満場となり開式の時刻となった。 にしばし圧倒されていると、ほどなくして堂 がされている。 さまがまつられ、 の一番奥まったところには金色に輝くご本尊 皆さんを見守ってきた歴史ある本堂だ。中央 建物と聞いている。 柱は太く天井が高い。この本堂は相当古い 日常とは異なる荘厳な雰囲気 その前には種々の飾り付け 永いあいだ地域や檀家の

なった。 ついていた堂内が水を打ったように静かに 法衣を着たご住職がおいでになると、ざわ

金剛合掌について

持の作法を行います。 労さまです。開式に当たり、 まずは胸の前で金剛合掌を結んでください。 本日はお集まりいただき、誠にご苦 皆さまに洒水加

金剛合掌とは、右の親指、 次に左の

Aさん

金剛合掌?



金剛合掌

親指、 します。 仏さまをあらわし、左の手は私たちをあらわ の指を交互に交叉させていきます。 右の人差し指、 左の人差し指と、左右 右の手は

ちの信心の中に現れるのを「加」といい、

たちの心が仏さまの慈悲の力をよく感じるこ

とを「持」というのです。

じく金剛合掌を結んだ。 拝見しながら、 味なのか。ご住職の意味深長な手のかたちを 退けることをあらわした、尊き合掌なのです。 固に結ばれ、強固な信念により一切の迷いを 掌とは、仏さまと私たちが一体となりより堅 ない、尊きものをいうのです。つまり金剛合 とは極めて堅固な、何者にも壊すことのでき れるダイヤモンドのことです。すなわち、金剛 Aさん-世にいう金剛石とは、 -なるほど金剛合掌とはそういう意 右が上、 左が下へと、私も同 最も硬い物質といわ

洒水加持について

は、ご本尊さまの尊き香水を洒ぐことをいい -続いて洒水加持を行います。洒水と

仏さまの力を込めたものを香水といいます。 ます。香水とは浄香と浄水を和したもので 心水、能く仏日を感ずるを持と名く」とおっ な水を用います。その二つの徳性を合わせ、 す。香の薫りは分け隔てなく空間 しゃっております。仏さまの慈悲の影が私た ていきます。また汚れを洗浄するにはきれい 加持について、宗祖弘法大師は「仏日のかだ」ので、「ここ」ではいるだらし、「ここ」ではいる。 衆生の心水に現ずるを加と曰い、行者の 一杯に広がっ

山が「加」となり、 面を私たちの心と見立てます。 す。仮に富士山を仏さまとし、波一つない湖 湖面に寸分違わず映り込んださまをいいま 住職 か。秀麗なる霊峰富士、その姿が波一つない **Aさん**――仏さまの力を感じる……。 -皆さん「逆さ富士」をご存じです 湖面が「持」となり、 このとき富士

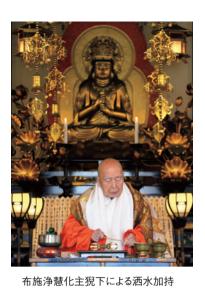
ありと受け止める 分自身の心があり さまの存在を、自 ことを、 加持感応

持ちが大切なので ことは私たちの心 というのです。 はないか。 ーという より積

A さん

逆さ富士

写真提供/ PIXTA



のではないか。 極的に仏さまに向き合うという姿勢が重要な

皆さんの心身に洒ぎます。心静かにお受けく

の音だけが静かに響いている。ご本尊さまの力 堂内は静まりかえり、ただただご住職の作法 が込められた尊き香水をこの身にいただこう。 掌を結び、 Aさん 少し頭を垂れて微動だにしない。 胸の前で金剛合

ださい。 -仏さまの功徳が込められた香水を、 満堂の皆さんは、

お授けについて

開き、ご住職に続き経文を一句ずつ唱えていく。 A さん 我昔所造諸悪業…… 続いてお授けをいたします。 あらかじめ渡されていたお経本を

!無大師遍照金剛…… お授けとは仏教の戒を授けることを

> お授けを受ける行事参列者 です。 とで、悪を防ぎ止 ならず戒を受けると 約束ごとです。のみ 教徒として守るべき 檀信徒の皆さんが仏 な力が身に備わるの 善を行う不思議

ありがたいことはない。 素晴らしい力が身につくのであれば、そんな Aさん-「悪を防ぎ善を行う」そのような

住職 くのです。 につれ、 いますので、 湯が冷める如くその力は失せてしま ただしらっかりすると、時間がたつ しばしばお授けを受けていただ

きれない。忘れてしまうのも心配だ。 けしていただいた。でもあんなに一度に憶え Aさん-たしかに先ほど沢山のことをお授

南無大師遍照金剛について

ま。 住職 称号ですが、ここでは宗祖弘法大師 空海さ す。「大師」とは天皇から高僧に下賜された 葉が語源で、 す。「南無」とは敬意をあらわすインドの言 お大師さまのことです。「遍照金剛」と 肝心なのは「南無大師遍照金剛_ 心の底から信ずるということで で

お慕いします。」ほどの意味となるのです。 たとき、師である恵果阿闍梨から賜った名前 まのことであると同時に、お大師さまが遥か 剛」とは、「お大師さまを心から信じ、 が「遍照金剛」なのです。「南無大師遍照金 唐の国に赴き、 手に金剛合掌を結び、 真言宗の根本の仏さまである大日如来さ 真言密教の真の後継者となっ 口に南無大師遍照金 敬い、

現れ、私たちに寄り添い、導いてくださって を身近に感じます。お大師さまは、 照金剛と唱えていると、不思議とお大師さま を込めてお祈りください。一心に南無大師 剛と唱え、心にお大師さまのお姿を思い、心 いるのです・・・・・。 も、どこでも、さまざまな姿で私たちの前に いつで

りをしてお寺を後にした。 沢山の僧侶の皆さんが並ぶ姿はなかなか壮観 と感じた。ほどなくして閉式となり、 大勢の僧侶の皆さんにより法要が行われた。 **Aさん**――ご住職のご法話を拝聴し、 読経の声も揃って、とても立派な法要だ その後 お墓参



修行大師尊像

います。戒とは、

仏さまに祈り 仏さまと出会う

目 次

智山寺院探訪 寶尾山長圓寺2
今日の法語(早川宥貴)5
特集 初めてお寺の行事に参加して
お大師さまとご信仰 (田村宗英)10
梵字よもやま話 (小峰智行)11
図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏②」(漫画・悟東あすか)12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう(平川真海)14
日本の四季を切り取る十七文字(星野高士)15
総本山の便りをお知らせします16
ニンゲンのつくり方 (中嶋亮順)18
ごくらくらくご (三遊亭竜楽)19
知っておきたい仏事 Q&A ······20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記22
各種行事案内/真言宗智山派出版物のご案内23
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波 (池田英真)24
お大師さまのご生涯お大師さまカルター (川崎一洸・三船毅志)26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる (渡邊淳司)28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko(内藤理恵子)30
十善戒と生きる力 (佐竹隆信)31

南無大師遍照金剛

(智山教化センター専門員/石川照貴)

今日はご住職から色々なことを教えていたでき、日々の生活では得られないような、さだき、日々の生活では得られないような、さず止め、善を行う力が備わる」とおっしゃっていた。なんだか体の中から力が満ちて、身も心も軽く清々しい気分である。
家に着いたら皆に何から報告しようか。流家に着いたら皆に何から報告しようか。流



弘法大師 空海 ご誕生 1250年

令和5年(2023年)

宗祖弘法大師ご誕生 1250 年ロゴマーク



ジャガイモの花咲く道 北海道



畑や田園にずっと続く未舗装道。かつてはどこにでもあったありふれた風景だが今は貴重になり郷愁を誘う。時々小石に足を取られながらも一歩一歩確実に前進して行く。次の展開は進めば自ずと見えてくるのだ。

P5

ライチョウのヒナのペア 長野県



ここは乗鞍岳の標高 2700m付近。コマクサ咲く ハイマツ帯でライチョウの子 どもたちが遊んでいる。側に は母親が絶えず周囲に気を配っているおかげで彼らは高山 の一瞬の夏を謳歌できてい る。現在の穏便な暮らしは宇宙の力に護られているのだ。

撮影・解説/岡田光司

「智積院の名宝」展



春は桜、秋は楓、秋草。四季を彩る美の競演は、日本美術の永遠不滅のテーマです。京都・東山の総本山智積院には、狩野永徳と並び称される桃山時代の巨匠・長谷川等伯(1539~1610)率いる一門によって、豊臣秀吉の子鶴松の菩提寺祥雲寺に描かれた金碧障壁画群が大切に守られてきました。今回は総本山智積院の名宝を一堂に集め展示するとともに、誰もが知る「桜図」「楓図」「松に秋草図」が寺外で初めて揃って公開される貴重な機会となります。普段とは違う、和のモダンを基調とした空間で国宝障壁画をお楽しみください。

サントリー美術館にて開催

2022年11月30日(水)~2023年1月22日(日)

交通機関(六本木・東京ミッドタウンまで)

- ●都営地下鉄大江戸線・東京メトロ日比谷線 「六本木駅」より直結
- ●東京メトロ千代田線「乃木坂駅」より徒歩約3分
- ●都営バス (渋谷発)都 01
 「六本木駅前」下車徒歩約2分



サントリー美術館

〒107-8643 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階 12月17日(土) 10:00~17:00

御朱印会を開催予定

変更がある可能性がありますので、詳細は サントリー美術館HPをご覧ください。

お問い合わせ:真言宗智山派宗務庁

教化部展示収蔵課

Tel: 075-541-5361

mail: chishakuin-shuzoko@chisan-ha.org